

3.2 市川市の生物多様性

市川市内には、樹林地や緑地、谷津、河川や海辺の水辺環境まで様々な自然環境がみられます。



緑地



社寺林



クロマツ



農地



梨園



谷津

樹林地、緑地

北部の台地斜面を縁取るようにわずかに小規模な斜面林等が残されており、管理方針を策定することで緑地や公園として保全されています。北西部には緑地が広がっており、里見公園、国府台緑地、小塚山公園、堀之内貝塚公園、堀之内緑地、じゅん菜池緑地などを結ぶ緑の回廊を形成しています。

砂州

市の中央部にある砂質の高まりを「市川砂州」と呼び、今の低地が海だったところに台地の縁が波で削られ堆積してできた地形です。砂州の上に帯状に群生していたクロマツは市の木であり、現在は市川市保存樹木協定制度により保全・育成がされています。

河川

市域では江戸川とその支川である真間川水系の河川があります。真間川流域の総合治水対策として国分川調節池や大柏川第一調節池が整備され、治水機能だけでなく、市民の憩いの場としても活用されています。また、大柏川では「多自然川づくり」も実施しました。



河川



調節池



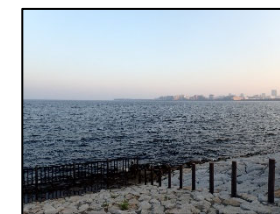
多自然型護岸



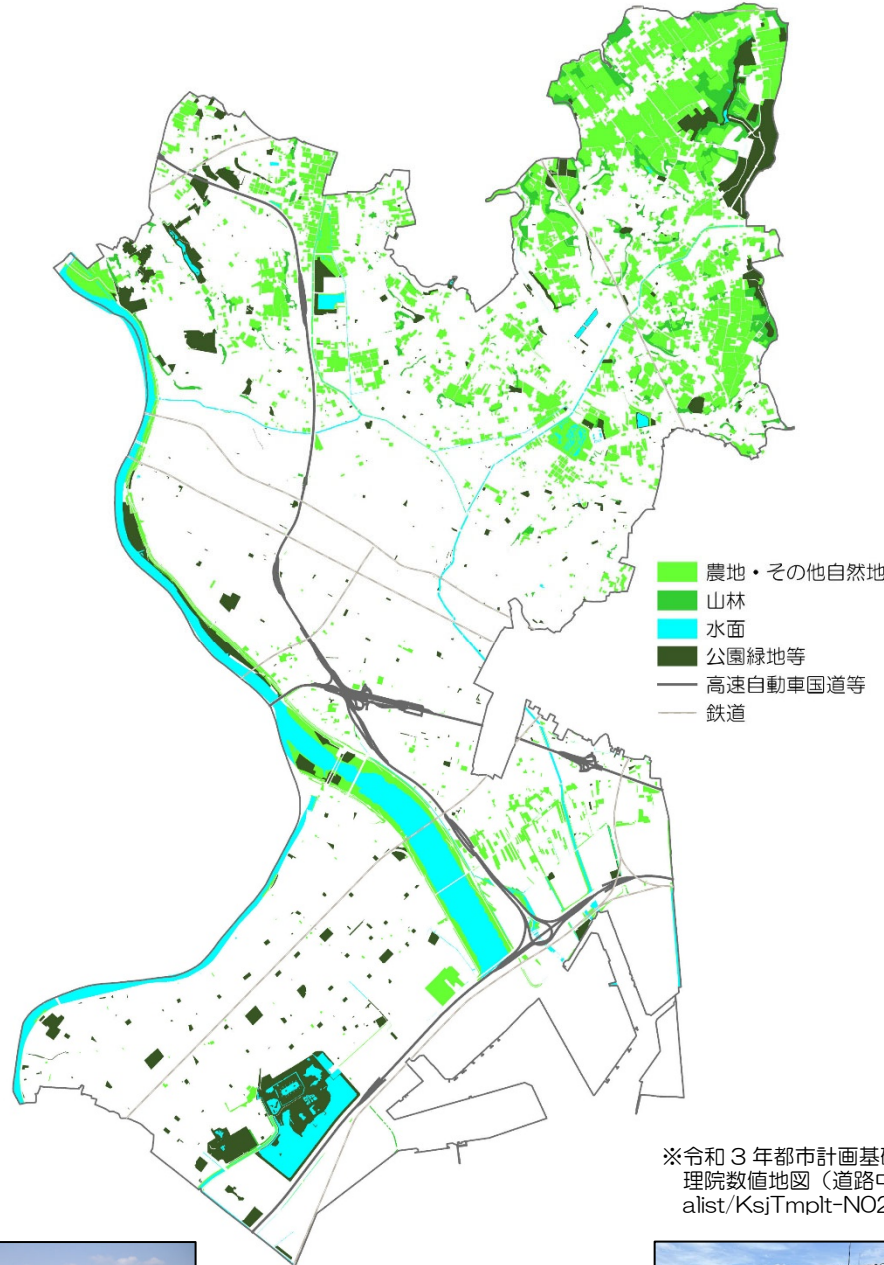
放水路



可動堰



三番瀬



■ 農地・その他自然地
■ 山林
■ 水面
■ 公園緑地等
— 高速自動車国道等
— 鉄道

台地、谷津

北東方向に大きな谷が伸びています。この大きな谷から台地に向かって多くの細かい谷が入り込んでおり、「谷津」と呼ばれる細長い谷地形が形成されています。谷津の両側は急峻な斜面林となっており、斜面林の裾からは湧水が多くみられます。この湧水は谷津の周りに広がる梨園の土に雨水がしみこむことで生み出されています。

海辺

20世紀半ば以前の東京湾海岸沿いの海岸湿地性の自然環境は、1960年代以降の埋め立て等の開発により、急激に消失しました。現在は湿地や干潟に生息・生育する生きものの保護のため、行徳鳥獣保護区の維持管理や三番瀬を臨む塩浜の親水事業として干潟の再生を目指す取り組みが行われています。

沿岸部はまた、江戸川の洪水回避のための江戸川放水路があります。海水の入り江となっており、水際は干潟となり、一部はヨシ群落の塩性湿地となっています。

※令和3年都市計画基礎調査、政府統計の総合窓口(e-Stat) (統計地理情報システム-国勢調査-千葉県市川市)、国土地理院数値地図(道路中心線)、国土数値情報(鉄道データ) (国土交通省) (<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-NO2-2024.html>) をもとに作成